HA+KO+NI+WA
PROJECT

かぐや姫（ひめ）

たけとりものがたり
『竹取物語』より

空にまあるく輝く満月を、見上げるたびに思い出すのは、かぐや姫の美しくも悲しいお話です。一千年以上も昔に作られ、日本最古の物語文学として、今も語り継がれている「竹取物語」を、わかりやすくご紹介します。

（9分50秒）

1.
今となってはもうむか〜しのこと。ある山に、おじいさんとおばあさんが、住んでおりました。
おじいさんは、竹取りの翁と呼ばれ、毎日山へ竹を切りに行っては、取った竹で、かごやらざるやら色々な道具をこしらえておりました。

2.
そんなある日のこと。
いつものようにおじいさんは竹を取りに山の奥へ出かけました。
すると、根元が光っている一本の竹を見つけたのです。

3.
おじいさんは不思議に思い、その竹を切ってみたところ、なんと中には小さな小さな女の子が入っているではありませんか。

4.
「これはどうしたことか！
まっことかわいらしい女の子じゃ…。
きっとこれは、子どものいないわしらに育てよという、神様からのおくりものにちがいない。」

5.
おじいさんは、女の子をそっと手のひらに乗せて、早速、家に連れ帰りました。
おばあさんも大喜びです。
ふたりは女の子を大事に大事に育てることにしました。

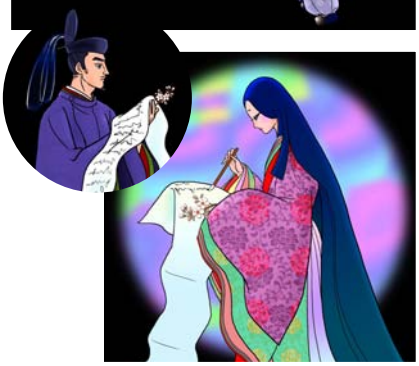
6.
女の子はわずかな間にすくすく育って、三ヶ月もたつころには、とても美しいむすめになりました。
ある人が、「かぐや姫」と名付けたので、みなもそう呼ぶようになりました。
かぐや姫とは、月のように美しく輝く姫という意味です。

7.
やがて、かぐや姫のうわさを聞きつけて、多くの人たちが、ひと目会いたい、できれば結婚したいといって訪れるようになりました。
ところが、かぐや姫は誰にも会おうとはしません。

8.
おじいさんとおばあさんは、かぐや姫のことを心配して、早く誰かと結婚をするようにすすめました。
かぐや姫は、悲しそうにじっとだまっているばかりでした。

9.
かぐや姫のうわさは、ついに帝(みかど)の耳にも入りました。
帝というのは、この時代の一番偉い人です。

10.
帝は、かぐや姫をひと目見て、どうしても結婚してほしいと申し出ました。
しかし、姫は、帝の願いさえも聞き入れずに、お断りしたのです。



11.
帝は、とても残念に思いましたが、かぐや姫と手紙を交わしながら、いつまでも姫のことを慕い続けました。

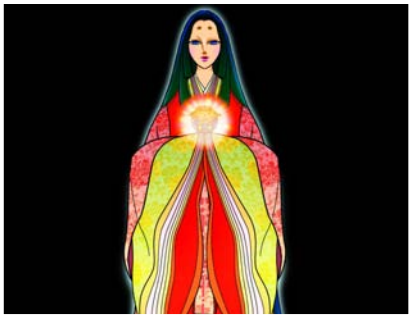
12.
やがて、夏が過ぎ、秋の十五夜近くになると、かぐや姫は、しくしくと泣くようになりました。
あまりのことにおじいさんが、かぐや姫に、なぜ泣くのかと問いただします。
すると、かぐや姫は、ようやくわけを話し始めたのです。

13.
「私は、この世界のものではありません。本当は、あの月から来たのです。今度の十五夜には、月の都から迎えがまいりますので、帰らなければなりません…。」
これを聞いたおじいさんは驚いて、帝に相談しました。
帝は、大勢の兵隊でかぐや姫を守り、月からの迎えが来たら、追いかえしてしまおうと、約束しました。

14.
いよいよ、十五夜の晩。
おじいさんの家のまわりを、兵隊がいくえにも取りかこみます。
夜中ごろになると、急に、月が十も出たかと思うほど、真昼のように、あたりがぱあっとあかるくなりました。

15.
「迎え撃て!」
帝の合図で、兵隊たちは、弓に矢をつがえようとしましたが、月の光りに目がくらんで、動けなくなってしまいました。

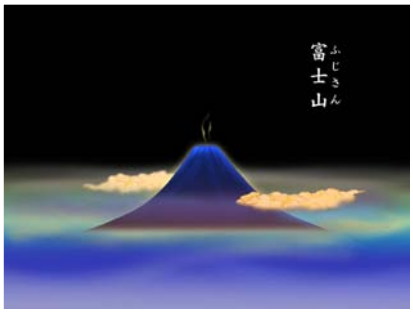
16.
その時、たくさんの天人が、雲に乗って下りて来ました。
月からの迎えがやってきたのです。



17.
かぐや姫は、悲しむおじいさんとおばあさんに向かって、静かに言いました。
「お別れするのは、身を切られるように悲しいですが、仕方がないのです。
月夜の晩には、どうか、私のことを思い出して下さい。
私も、おふたりに育てていただいたご恩は、決して忘れません。お別れにせめてものお礼として、この薬を差し上げます…。」

かぐや姫がふたりに差し出したのは、不死(ふし)の薬という、飲めばいつまでも死なずにいられる、不思議な薬でした。

18.
そうして、かぐや姫は天人と一緒に雲に乗り、月の輝く高い空へと昇って行ってしまいました。



19.
残された三人は、かぐや姫がいなくなった今、不老不死になって永遠に生き続けても意味がないとして、かぐや姫から渡された不死の薬を、日本で一番高い山の頂上で、焼いてしまいました。

それからの事、その山は、不死の山(ふしのやま)…富士山(ふじさん)と呼ばれるようになったのです。

語り：山崎和佳奈　脚本／イラスト：塚田洋子　編集：福留政彦　録音：(株)アライヴ

HA+KO+NI+WA PROJECT
株式会社リブラ　HAKONIWA PROJECT　URL http://libra-co.com/hako/
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間 4-5-9 田園都市建設ビル7F　TEL:046-272-6384 FAX:046-278-1161